

# 芳賀町遺跡分布調査報告書

平成11年3月

芳賀町教育委員会



## 序 文

芳賀町は、栃木県南東部に位置し、都心から100キロメートル圏でありながら自然に恵まれた豊かな町です。中心部は平坦地で、五行川、野元川が貫流し水利に恵まれているため、栃木県の代表的な米の産地になっています。一方、東部、西部は台地で果樹や野菜をはじめ施設園芸や畜産など都市近郊型農業が営まれています。古くは街道の道筋にあたり、宿場として栄えた芳賀町域の旧村も、明治維新を経て町村合併が行われ、芳賀町が誕生、現在に至っています。

郷土の先人たちは、古代から近世に至るまで、それぞれの時代の中で次々と新しい文化を生み出してきました。町内に今も残る先人たちの足跡の中から、そのロマンと英知を読みとることができ、各時代を物語る貴重な文化財や史跡も数多く残されています。今後私たちにできることは、長い歴史が語りかけてくるものを読み取り、町づくりや新しい文化の創造に役立てると同時に、かけがえのない文化遺産を大切に保護し、後世に受け継いでいくことであると思います。

現在、町でも埋蔵文化財保護行政の充実に積極的に取り組んでいますが、さらに緻密な保護行政を推進するために、このたび遺跡詳細分布調査を実施いたしました。調査の結果、町内の台地をはじめ各所に貴重な遺跡が広い範囲にわたり分布していることが新たに確認されました。本報告書はこれらの遺跡の分布状況の概要をまとめたものであり、各種開発関係者をはじめ住民の皆様に貴重な遺跡の適切な保護、保存のための基礎資料としてご活用いただき、埋蔵文化財に対する一層のご理解とご協力が得られれば幸いと存じます。

末文になりましたが、調査にあたりご指導をいただきました栃木県教育委員会をはじめ実際に調査にあたりました調査員の皆様方、さらにご協力をいただいた関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます次第であります。

平成11年3月

芳賀町教育委員会

教育長 吉永和夫

## 例 言

1. 本書は栃木県芳賀郡芳賀町教育委員会が国及び県の補助金を受け、平成7年度から9年度の3カ年にわたって実施した芳賀町埋蔵文化財遺跡詳細分布確認調査（以下遺跡分布調査）の結果をまとめたものである。
2. 遺跡分布調査は芳賀町教育委員会が主体となり、別表に紹介する遺跡分布調査関係者の惜しみない協力により行った。
3. 調査は栃木県遺跡地図（以下県遺跡地図）を基礎資料として、町内全域について実施した。
4. 県遺跡地図での登録遺跡は65遺跡、今回新たに発見された遺跡は291遺跡にのぼり、それら全てを通し番号で整理した。
5. 遺跡の範囲は、土器などの分布状態を中心とし、地形などを参考としたが、表面採集の調査を主としたため、今後精度を高める必要があるので取扱いには配慮されたい。
6. 遺跡の名称は原則として土地に伝承されている小字名によりつけた。
7. 遺跡の所在地は代表地番により記載した。
8. 遺跡分布調査結果の基本台帳は、芳賀町遺跡詳細分布調査カード（別添様式参照）として作成し、必要項目データについては、フロッピーによる管理とした。調査台帳及び遺跡地図（地籍図）及び採集遺物は芳賀町教育委員会で保管する。
9. 遺跡分布地図は、芳賀町が建設省国土地理院長の助言（助言番号 H5 関公 第56号）を受けて得た測量成果を使用して調整した1万分の1の現況地形図を使用した。
10. 遺跡の掲載は、地形図をもとにして、その概要については見開きに説明を付し、利用しやすくまとめた。
11. 本報告書の執筆と編集は、総括管理の塙静夫および調査主任の橋本澄朗の指導のもと、芳賀町教育委員会社会教育課文化係が主体となり、調査員平久保直希、大沼正代、大島美智子、塩谷慎介の援助を得て作成した。

## 遺跡分布調査関係者

| 氏 名    | 区 分     | 所 属                       | 実 施 年 |      |      | 補完調査 | 報告書<br>作成担当 |
|--------|---------|---------------------------|-------|------|------|------|-------------|
|        |         |                           | 7 年度  | 8 年度 | 9 年度 |      |             |
| 埴 静夫   | 総 括 管 理 | 作新学院女子短期大学講師・町史編纂監修者      | ○     | ○    | ○    |      |             |
| 橋本 澄朗  | 調 査 主 任 | 栃木県埋蔵文化財センター・町史編纂考古部会長    | ○     | ○    | ○    |      | ○           |
| 山ノ井 清人 | 調 査 員   | 作新学院高等部教諭・町史編纂考古部会専門委員    | ○     | ○    | ○    |      |             |
| 上野 とも子 | 調 査 員   | 作新学院非常勤講師                 |       | ○    |      |      |             |
| 水沼 良浩  | 調 査 員   | 作新学院高等部教諭・町史編纂考古部会専門委員    | ○     | ○    | ○    |      |             |
| 高橋 史朗  | 調 査 員   | 作新学院高等部教諭・町史編纂考古部会専門委員    | ○     | ○    | ○    |      |             |
| 上野 修一  | 調 査 員   | 栃木県埋蔵文化財センター・町史編纂考古部会専門委員 | ○     | ○    | ○    |      |             |
| 黒沢 崇   | 調 査 員   | 栃木県埋蔵文化財センター（現千葉県文化財センター） | ○     | ○    |      |      |             |
| 平久保 直希 | 調 査 員   | 栃木県埋蔵文化財センター              |       | ○    | ○    |      | ○           |
| 大沼 正代  | 調 査 員   | 栃木県埋蔵文化財センター（現栃木県立博物館）    | ○     | ○    | ○    |      | ○           |
| 平山 紋子  | 調 査 員   | 栃木県埋蔵文化財センター（現名古屋大学大学院生）  |       |      | ○    |      |             |
| 大島 美智子 | 調 査 員   | 栃木県埋蔵文化財センター              |       |      |      | ○    | ○           |
| 塩谷 慎介  | 調 査 員   | 栃木県埋蔵文化財センター              |       |      |      | ○    | ○           |
| 根本 牧子  | 調 査 員   | 栃木県埋蔵文化財センター（現主婦）         | ○     | ○    |      |      |             |
| 羽山 弘   | 調 査 員   | 栃木県埋蔵文化財センター（現会社員）        |       |      | ○    |      |             |
| 大河原 陽  | 調 査 員   | 学生                        |       |      |      | ○    |             |

# 芳賀町遺跡詳細分布調査カード

栃木県番号( )

芳賀町番号( )

|       |                        |                           |  |       |                         |       |       |
|-------|------------------------|---------------------------|--|-------|-------------------------|-------|-------|
| 名 称   |                        |                           |  | 時代    | 旧・縄・弥・古・飛・奈・平・鎌・南・室・安・江 |       |       |
| 所在地   | 芳賀町大字 字 番地             |                           |  | 地図    |                         |       |       |
| 種 別   | 散布地・集落跡・古墳・城館跡・その他 ( ) |                           |  | 指定    |                         |       |       |
| 遺跡の概要 | 立 地                    | 低(湿)地・微高地・台地・段丘・丘陵・その他( ) |  | 土地所有  | 国有地・公有地( )・社寺( )・民有地    |       |       |
|       | 現 状                    | 田・畑・宅地・山林・牧草地・境内・その他( )   |  |       | 住所氏名                    |       |       |
|       | 範 囲                    | 東西 m×南北 m                 |  | 出土品   |                         |       |       |
|       | 遺 構                    |                           |  |       |                         |       |       |
|       | 特 徴                    |                           |  |       |                         |       |       |
| 文 献   |                        |                           |  |       |                         |       |       |
| 既 調 査 | 発掘・測量・無                | 調査者                       |  | 調 査 年 | 昭・平 年                   |       |       |
| 調査年月日 | 平成 年 月 日               | 調査者                       |  | 写真番号  |                         | 補充カード | 有・無 数 |

|       |         |
|-------|---------|
| 位 置 図 | 遺 跡 略 図 |
|       |         |
| 写 真   |         |

# 目 次

## 序 文 例 言

|               |   |
|---------------|---|
| I 埋蔵文化財の保護と開発 | 8 |
|---------------|---|

## II 芳賀町の遺跡の概要について

|               |    |
|---------------|----|
| (1) 芳賀町の地理的環境 | 9  |
| (2) 芳賀町の遺跡の様相 | 10 |
| (3) 参考文献      | 15 |

## III 遺跡の概要

|                 |    |
|-----------------|----|
| 1. 給部の遺跡        | 18 |
| 2. 上稲毛田 2-2 の遺跡 | 20 |
| 3. 上稲毛田 2-1 の遺跡 | 22 |
| 4. 稲毛田 3-3 の遺跡  | 24 |
| 5. 稲毛田 3-2 の遺跡  | 26 |
| 6. 稲毛田 3-1 の遺跡  | 28 |
| 7. ハツ木の遺跡       | 30 |
| 8. 芳志戸 3-1 の遺跡  | 32 |
| 9. 芳志戸 3-2 の遺跡  | 34 |
| 10. 芳志戸 3-3 の遺跡 | 36 |
| 11. 祖母井 3-3 の遺跡 | 38 |
| 12. 祖母井 3-2 の遺跡 | 40 |
| 13. 祖母井 3-1 の遺跡 | 42 |
| 14. 上延生の遺跡      | 44 |
| 15. 下延生 2-2 の遺跡 | 46 |
| 16. 下延生 2-1 の遺跡 | 48 |
| 17. 東高橋 3-3 の遺跡 | 50 |
| 18. 東高橋 3-2 の遺跡 | 52 |
| 19. 東高橋 3-1 の遺跡 | 54 |

|                  |    |
|------------------|----|
| 20. 下高根沢 7-1 の遺跡 | 56 |
| 21. 下高根沢 7-2 の遺跡 | 58 |
| 22. 下高根沢 7-3 の遺跡 | 60 |
| 23. 与能 2-2 の遺跡   | 62 |
| 24. 与能 2-1 の遺跡   | 64 |
| 25. 下高根沢 7-6 の遺跡 | 66 |
| 26. 下高根沢 7-5 の遺跡 | 68 |
| 27. 下高根沢 7-4 の遺跡 | 70 |
| 28. 芳賀工業団地の遺跡    | 72 |
| 29. 東水沼 3-3 の遺跡  | 74 |
| 30. 東水沼 3-2 の遺跡  | 76 |
| 31. 東水沼 3-1 の遺跡  | 78 |
| 32. 西水沼 2-2 の遺跡  | 80 |
| 33. 西水沼 2-1 の遺跡  | 82 |
| 34. 西高橋 3-3 の遺跡  | 84 |
| 35. 西高橋 3-2 の遺跡  | 86 |
| 36. 西高橋 3-1 の遺跡  | 88 |

|            |    |
|------------|----|
| IV 芳賀町遺跡一覧 | 90 |
|------------|----|

## I 埋蔵文化財の保護と開発

本書に掲載された遺跡は、「周知の埋蔵文化財包蔵地」（文化財保護法第 57 条の 2）として認められたものであり、今後この範囲内を開発しようとするときは、文化財保護法の規定による諸手続きを行わなければならない。

これらの諸手続きについては発掘の種類によって以下のように定められている。

### （１）埋蔵文化財の発掘に関する諸手続き

| 発掘の種類            |                   | 文化財保護法    | 手続き                 | 文化庁         |
|------------------|-------------------|-----------|---------------------|-------------|
| 学術発掘調査           |                   | 第 57 条    | 30 日前に届出            | 指示、停止、禁止、中止 |
| 土木工事等に<br>伴う発掘調査 | 民間・私人<br>の土木工事    | 第 57 条の 2 | 60 日前に届出            | 指示          |
|                  | 公共機関等の<br>土木工事(※) | 第 57 条の 3 | 土木工事計画策定<br>にあたって通知 | 協議、勧告       |
| 地方公共団体の<br>発掘調査  |                   | 第 98 条の 2 | 30 日前に通知            | 指導、助言       |
| 文化庁長官の<br>発掘調査   |                   | 第 58 条    | 土地所有者、占有<br>者に令書を交付 |             |

(※) 公共機関等とは、国、地方公共団体、公社、公団等をいう。

公社、公団等は文化財保護法施行令(昭 50 法令第 267 号)第 1 条に定めるものである

(例1) 町史編纂のため編纂室が発掘調査する。→ (法 57 条)

(例2) 民間宅造に先立って、遺跡調査会を組織して発掘調査する。

↓  
(法 57 条の 2)

↓  
(法 98 条の 2)

(例3) 公立学校建設に先立って、市町村教育委員会が発掘調査する。

↓  
(法 57 条の 3)

↓  
(法 98 条の 2)

(例4) 区画整理組合の区画整理事業に先立って、大学の考古学研究室が発掘調査する。

↓  
(法 57 条の 3)

↓  
(法 57 条)

(注) 書類は町教育委員会に 3 部提出すること。



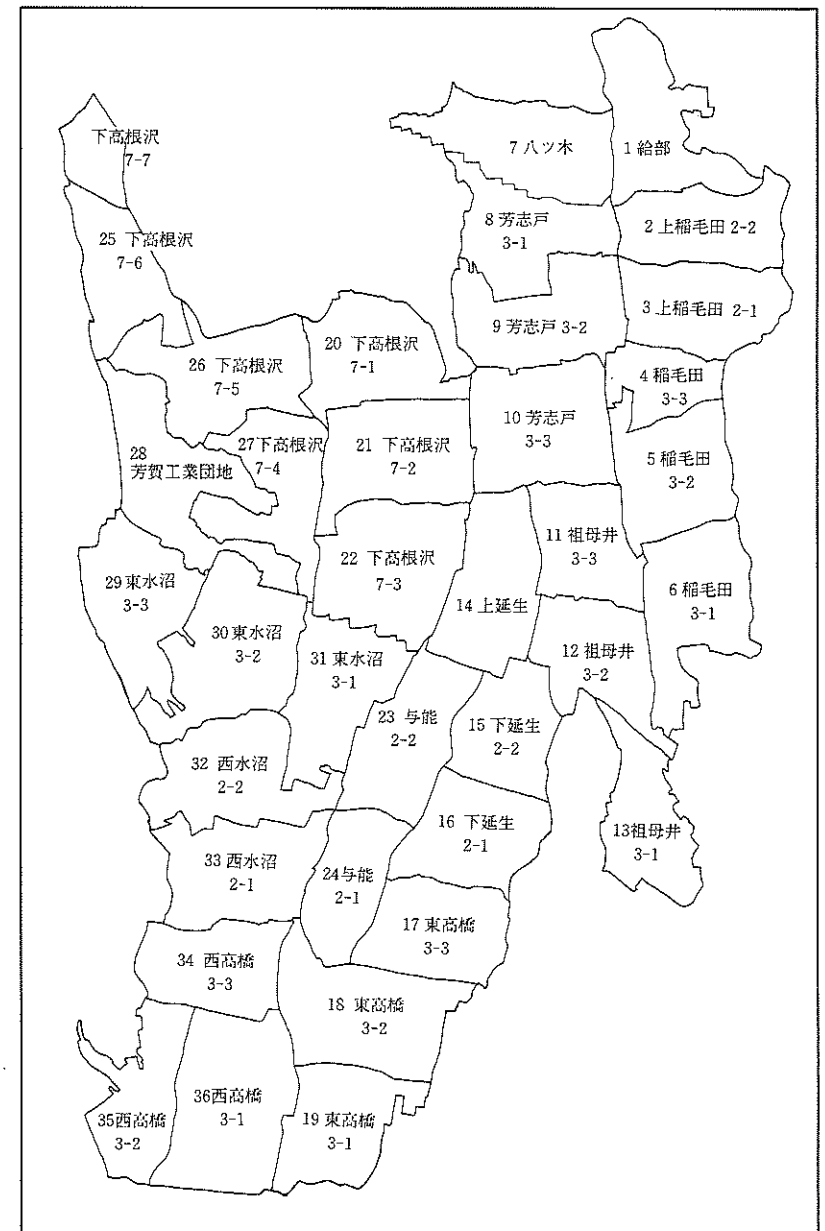
志戸3-1~3と祖母井3-1~3の西半の地籍図が該当する。

**芳賀町東部** 福島と茨城の県境から南に連なる八溝山系の西端に位置する。八溝山系の西端部は、喜連川丘陵と呼ばれ、緩やかな起伏を示しつつ南に延びる。その丘陵を小貝川の支流大川が南流して、狭長な低地を形成する。大川の右岸、喜連川丘陵の西接して緩やかな斜面を呈する稲毛田台地が南に延びる。本地区は丘陵と台地が卓越しており、畑作や果樹園としての利用が目立つ他は、雑木林となっている。本地区には給部、上稲毛田、稲毛田3-1~3、八ツ木・芳志戸3-1~3と祖母井3-1~3の東半の地籍図が該当する。

## (2) 芳賀町の遺跡の様相

今回の遺跡詳細分布調査実施以前で芳賀町の周知の遺跡として認識されていたのは、『栃木県文化財地図』に掲載された65遺跡であった(栃木県教委 1989)。今回の調査で新たに291遺跡が発見され、通番号では356になった訳である。その一覧表は巻末に示したが、項目としては遺跡番号、遺跡名、地図名(地籍図)、所在地、時代(旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中世、近世以降)、種類、立地、現状(土地利用)順に示した。356と云う数字が遺跡の実数を示すものではない。それは周知の遺跡の中に、現在は消滅したものも含まれているからである。それでも確実に350近い遺跡が存在することになる。このような遺跡個々の詳細は、後述する分布図を参照されたい。ここでは前記したように、本町を三地区に分けて遺跡の立地傾向を示すとともに主要な遺跡を紹介したい。さらに、それらの遺跡の研究史についても若干みておきたい。

**芳賀町西部の遺跡：**南に延びる宝積寺台地の東縁、眼下に野元川の低地を望む台地端部周辺には、縄文、古墳~奈良・平安時代を中心に遺跡の分布が認められる。それでも他の二地区に比較すると、遺跡数は相対的に少ない。それは、平坦な台地中央部には遺跡の所在がほとんど確認できないことに起因する。しかし、台地中央部でも湧水や小河川に刻まれた谷の周辺には遺跡が認められる。水の便を考慮すれば当然のことであろう。しかし、第3図に示したように、台地縁辺部の古墳の在り方を考慮すれ



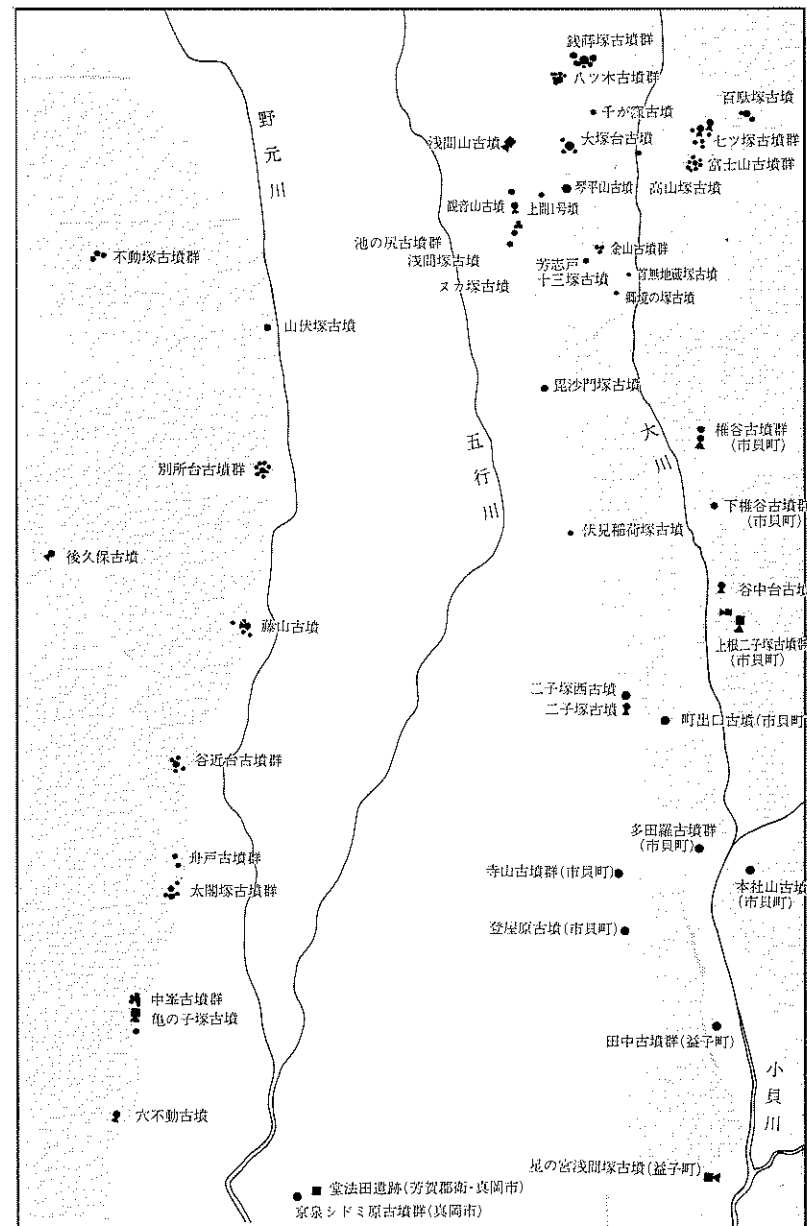
第2図 芳賀町地籍図

ば、この周辺に古墳と関連する集落跡の存在が想定される。現状が雑木林で遺跡の所在を確認できなかった地区もあり、もう少し遺跡数は増加すると推定される。次に、本地区の主要な遺跡を紹介しよう。

縄文時代の遺跡としては、本町北西部、高根沢町に隣接する宝積寺台地東縁に立地する金井台遺跡が注目される。金井台遺跡は二度の調査が実施され、弁天池遺跡とともに本町の代表的な縄文中期の大規模な遺跡である（塙 1970、青木 1981）。他に、消滅してしまったが、縄文時代前期の三日市台遺跡（塙 1983）や縄文時代前・中期の免の内台遺跡がある。宝積寺台地東縁に立地する免の内台遺跡は、縄文時代や弥生時代の遺物も発見されているが、遺跡の中心は古墳～奈良・平安時代であり、県内屈指の大規模な遺跡であることが判明している（石川 1980・85、宮崎 1989、山武考古学研究所 1992）。

次に、古墳時代の遺跡をみていこう。集落跡としては、古墳時代前期の谷近台遺跡（塙 1975）と古墳時代後期の免の内台遺跡が注目される。特に、谷近台遺跡から出土した古墳時代前期の土器群は弥生時代から古墳時代への移行を考える上で注目された（小森 1980）。古墳は比較的確認が容易であり、その在り方から古代の歴史を考えるのは有効な方法である。第3図に示した分布図を参照しながら詳しく古墳の様相をみていこう。

本地区の主要な古墳を北より示せば、円墳 10 基からなる別所台古墳群、後久保古墳、藤山古墳群、谷近台古墳群、円墳 6 基の中峯古墳群、亀の子塚古墳、穴不動古墳等がある。宝積寺台地の中央部、開析谷の縁辺部に築造された後久保古墳は、全長 45m の前方後円墳である。埴輪が確認できることから 6 世紀後半の築造と推定される。台地東縁部に立地する全長約 45m の前方後円墳である藤山古墳は、周囲の 4 基の円墳を含めて古墳群を形成する。藤山古墳は前方部の発達した形状や埴輪のないことから 7 世紀初頭の築造と考えられる。同じ台地縁部には、円墳 6 基からなる谷近台古墳群が所在する。その一つが剣塚古墳あるいは錫杖塚古墳と呼ばれる径約 20m の円墳で、昭和 49 年に発掘調査されている。調査により箱式石棺内から剣と鉄鏃が出土し、横穴式石室波及前段階の 6 世紀前半の築造と考えられる（大金 1974 a）。谷近台古墳群の南に造られたの



第3図 芳賀町及び周辺古墳分布図

が、前方後方墳の亀の子塚古墳である。本墳は古墳時代前期の築造と考えられ、県の史跡に指定されている（栃木県史編さん委員会 1976）。後方部が行事神社境内に、前方部がその参道のため若干の墳形の変容は認められるが、比較的保存状態の良い古墳である。本町最南端に築造されたのが全長約 30m と推定される前方後円墳の穴不動古墳である。本墳の破壊状況は酷いが、後円部に川原石積みの横穴式石室が露呈していることから 6 世紀後半の築造と考えられる（塙 1983）。

最後に、本地区の奈良・平安時代の遺跡をみていこう。ここで特筆されるのが、前述した免の内台遺跡である。本遺跡からは奈良・平安時代の竪穴住居跡が約 200 軒ほどが調査されている。宝積寺台地上に造られた同様な遺跡には、真岡市井頭遺跡（大金 1974b）がある。台地上に突如形成された大規模な律令制下のムラの性格をどのように評価するか、興味深いテーマである。同様なムラとしては、谷近台遺跡がある。古墳時代前期のムラとしても知られているが、台地の端部から内側に入ると、奈良・平安時代の大規模なムラになることが調査で確認されている（岩崎他 1995）。

**芳賀町中央部の遺跡** 野元川と五行川の形成した低地部である本地区は、今回の調査で最も多くの遺跡が発見されたのである。遺跡が発見された地点は、ほとんどが低地で、現状は水田になっている。新発見の遺跡は古墳時代以降、さらに言えば、奈良・平安時代から中世が中心である。その歴史的意味付けは、以下の通りである。低地への本格的な進出の条件には、広域的な用水の管理と水田の整備が不可欠になる。それを可能にしたのは、律令制の確立を目指す国家的規模での開発行為である。具体的には、本町の南端に隣接する真岡市京泉、五行川左岸に造られた芳賀郡衙（郡役所）とされる堂法田遺跡の存在である。芳賀郡衙が五行川の沿いの低地に造られたことを契機に、この地域の開発は加速度的に展開したと考えられる。そのことを雄弁に語るのがこの地域から発見された多くの遺跡群であろう。しかし、発見された個々の遺跡の評価には限界があるのは当然である。さらには、水田造成に伴い遺跡の破壊は相当進行しているものと想像される。それではこの地区の主要な遺跡を説明しよう。

縄文時代の遺跡としては上延生の三本木遺跡が挙げられる（塙 1983）。本遺跡は低地に形成された縄文時代中期から後期の遺跡として注目される。本遺跡以外に一定数の縄文時代の遺跡が確認できたが、ほとんどが小規模な遺跡である。縄文人が低地を生活圏にしたことは確実であるが、その実態は今後の調査の進展を期待する以外にない。古墳時代の遺跡としては下延生の作内遺跡が知られている（塙 1956）。本遺跡からは古墳時代後期の土器群が出土している。この低地から本町域では古墳は発見されていない。古墳時代には大規模なムラは造られなかったことを示すものであろうか。状況が一変するのは上述の通り奈良時代以降であり、中世に至るまで活発な活動を示す遺跡が多数確認できる。

**芳賀町東部の遺跡** 緩やかな起伏をみせる喜連川丘陵、丘陵に連続する稲毛田台地と祖母井台地には、縄文・弥生・古墳時代と多様な遺跡が存在している。特に、五行川の低地を望む台地西縁部と喜連川丘陵を刻んで南流する大川周辺には、古墳時代を中心に多くの遺跡が確認できる。しかし、奈良・平安時代の遺跡は他の二地区に比較すると、精彩を欠くようである。次に、本地区で注目される遺跡を具体的にみていこう。

まず、縄文時代の遺跡としては、祖母井の弁天池遺跡と八ツ木の坪之内遺跡が注目される。まず、縄文時代中期中頃から後期初めに形成された弁天池遺跡である。過去に、二次の調査が実施され、17 基の袋状土坑と 3 カ所の炉跡が発見されている（宇都宮大学歴史研究会考古学グループ 1970、宇都宮大学考古学研究会 1976）。ここで注目したいのは、多様で個性的な縄文時代中期の土器群である。前述した金井台遺跡でも同様であるが、東関東系の土器（阿玉台式土器）、南関東系の土器（加曾利 E 式土器）、東北地方南部の土器（大木 8 式土器）さらには北陸地方（馬高式土器）等の影響下に土器が作られている。土器作りの中に、私達の想像を越えた縄

文人の壮大な交流を知ることができる。次に、縄文時代中・後・晩期の坪之内遺跡である。昭和 29 年に調査が実施され、この地域では調査例の少ない後・晩期の貴重な土器群が発見されている（埴 1955、1958、1960）。中・後期の土器群は南関東地方と大差ないが、晩期になると東北地方で盛行した亀ヶ岡式土器と呼ばれる大洞式系統の土器が中心を占めるようになる。晩期になると、東北地方との関係が深くなること示すものである。

次に、弥生時代の遺跡としては祖母井の赤坂道上遺跡と芳志戸の東秋場遺跡が注目される。赤坂道上遺跡は縄文時代中・後期の遺跡でもあるが、本町では発見例の少ない弥生時代の壺形土器が出土した遺跡として知られている（埴 1983）。この土器は現在埼玉県長瀬総合博物館に所蔵されており、本県の弥生土器のなかでも古いとされる条痕文土器の仲間と考えられる。1 個の壺が弥生文化の黎明を知らせることになる。次の東秋場遺跡では、群馬（赤井戸式土器）や埼玉（吉ヶ谷式土器）の弥生土器と類似した土器が出土したことで注目される（埴 1983）。この土器の評価は難しく、弥生時代後期初めから古墳時代前期まで意見が分かれおり、今後の検討課題である。

次に、古墳をみていこう。この地区の古墳は多様で本県でも注目される地域の一つである。まずは稲毛田台地の西縁に築造されたのが、ハツ木の浅間山古墳である。本墳は全長約 56m、前方部前端幅約 23m、後方部幅約 31m の前方後方墳である（栃木県史編さん室 1976）。亀の子塚古墳と同規模であり、古墳時代前期の築造と考えられる。本墳に継続する古墳を明確に示すことはできない。しかし、本墳周辺には築造時期が遡ると推定される大形な 4 基の円墳が確認できる。これらの円墳は南に延びる喜連川丘陵の頂部付近に築造され、北より銭蒔塚古墳、大塚台古墳、琴平山古墳、十三塚古墳と呼ばれている（埴 1983）。

最も北よりに築造されたのが、給部の銭蒔塚古墳である。6 基の円墳からなる古墳群の主墳で、径 30m を越える大形墳である。本墳は丘陵の頂部に築造されており、五行川の低地との比高は約 40m である。浅間山古墳の東約 0.6 km、丘陵頂部に築造されたのが芳志戸の大塚台古墳である。本墳は県指定史跡であり、東西径約 49m、南北径約 44m の大形な円墳である。周辺に 3 基の小形な円墳が確認できる。大塚台古墳の南約 0.5 km に築造されたのが、芳志戸の琴平山古墳である。本墳も径約 45m の大形墳であり、周辺には 4 基の円墳が確認できる。4 基の大形な円墳の中で唯一年代が確実なのが、芳志戸の十三塚古墳である。本墳は浅間山古墳の南南東約 1.5 km、喜連川丘陵の西縁に築造された径約 30m の円墳である。出土した石製模造品から 5 世紀中頃の築造と考えられる（小森 1989）。さらに、浅間山古墳の東北東約 1 km、銭蒔塚古墳と大塚台古墳の中間に築造されたのが、給部の千が窪古墳である。開田工事により消滅した径約 20m の円墳である。調査の結果、類例の少ない埴輪棺の埋葬施設とともに多数の埴輪類が出土し、6 世紀前半の古墳と考えられる（埴・屋代 1967）。このように本地区には 6 世紀後半の横穴式石室波及前に、築造された古墳が一定量みられるのは注目に値する。本県での大形円墳の出現を 5 世紀前半とすると、これらの古墳と前方後方墳の浅間山古墳に後続させるにはやや空白を感じる。東国での前期と中期の古墳文化の断絶が指摘される研究現状で、未知の古墳を一つ入れると、この地域で一連の首長墓の系譜が認められそうである。今後の興味深い研究テーマである。

6 世紀後半になると、全長 40m 以下の前方後円墳を主墳とする古墳群が形成されるのは、芳賀地域の古墳文化の一般的傾向である。これらの古墳を北より示せば、七ツ塚古墳群、観音山古墳、二子塚古墳、谷中台古墳がある（埴 1983）。上稲毛田の七ツ塚古墳群は、喜連川丘陵の小河川に開析された谷の奥に築造された古墳群であり、長塚古墳（全長約 35m）と瓢箪塚古墳（全長約 25m）の 2 基の前方後円墳と 5 基の円墳からなる。本古墳群の周辺には、径約 30m と比較的大形な円墳の百駄塚古墳や円墳 7 基からなる富士山古墳群も築造されている。芳志戸の観音山古墳は稲毛田台地西端に南面して造られた全長 38m の前方後円墳である。現状で

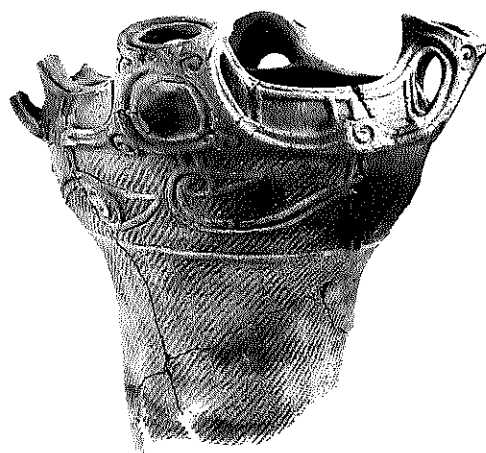
は前方部が低い、後世に削平されたもので後期の築造と考えられる。祖母井の二子塚古墳は祖母井台地に南面して築造された全長約 32m の前方後円墳である。周辺には円墳の二子塚西古墳など数基の古墳の存在し、本墳を主墳に古墳群を形成していたと考えられる。小貝川の支流である大川左岸の喜連川丘陵に築造されたのが、稲毛田の谷中台古墳である。本墳は全長約 36m、前方部がやや低い南面する前方後円墳であるが、古墳時代後期の築造と考えられる。本墳に隣接する市貝町にも、小貝川沿いに多数の古墳が確認されている。

前方後円墳以外にも多くの円墳が造られている。その中で注目されるのが、祖母井の二子塚西古墳である。本墳は二子塚古墳群中の円墳の一つであるが、昭和 55 年に発掘調査が実施され、凝灰岩の切石の横穴式石室から多くの副葬品が出土している（屋代 1980）。横穴式石室から 2 回以上の追葬が確認でき、死者を埋葬した玄室からは直刀、耳環、勾玉等の玉類等の副葬品が出土している。出土品などから 7 世紀前半の築造と考えられる。以上が、本地区の古墳の概要であるが、古墳時代の前・中・後期と多彩な古墳文化が展開したことが理解できよう。

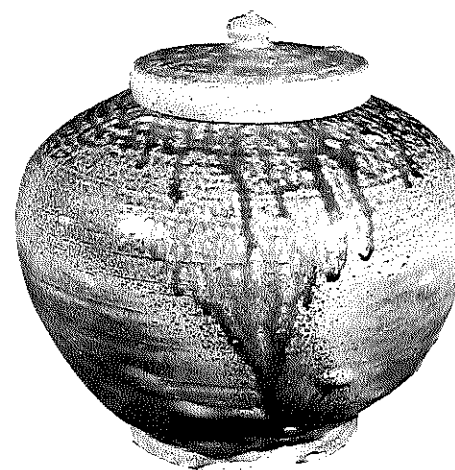
前述したように、奈良・平安時代以降で注目される遺跡は少ない。そんな中で異彩を放つのが、稲毛田の上野原北遺跡である。本遺跡からは火葬骨を容れた平安時代初期の薬壺形の灰釉壺が出土したことで知られている（影山 1968、橋本 1984）。本県周辺では須恵器の薬壺形の壺は骨藏器に利用されるが、当時は貴重品とされた愛知県猿投産とされる灰釉壺が出土したことは特筆されよう。

本報告作成に際して、先学の多くの文献を参考にした。参考文献は別記の通りである。なお、文献一覧の作成に際して、塩谷慎介氏に労を煩わしたことを付記しておく。

（橋本 澄朗）



金井台遺跡出土の縄文土器



上野原北遺跡出土の灰釉陶器

### (3) 参考文献

- 青木健二 1981『栃木県高根沢町 上の原遺跡』日本窯業史研究所報告第13冊
- 安藤美保・岩上照朗・岩崎浩恵・上野修一・茂木真澄・山本勝行 1995.3『谷近台遺跡－県営畑地帯総合土地改良事業「水沼台地区」に伴う埋蔵文化財発掘調査』  
栃木県埋蔵文化財調査報告第167集
- 石川 均 1980『芳賀西部台地土地区画整理事業 遺跡確認調査概報』芳賀町
- 石川 均・後藤信祐・鎗木理広・宮崎光明 1985『免の内台遺跡調査概報Ⅰ』芳賀町の文化財第10集 芳賀町教育委員会
- 宇都宮大学考古学研究会 1976『芳賀町弁天池遺跡第二次調査報告』
- 宇都宮大学歴史研究会考古学グループ 1970『芳賀町弁天池遺跡調査報告』
- 大金宣亮 1974a『錫杖塚古墳発掘調査概報－栃木県芳賀郡芳賀町所在』芳賀町教育委員会
- 大金宣亮他 1974b『井頭遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第14集
- 大和久震平・塙 静夫 1972『栃木県の考古学』吉川弘文館
- 影山正志 1968「芳賀町稲毛田出土の蔵骨器」『栃木県考古学会誌』第2・3合併集
- 川田 均 1991「芳賀町稲毛田向山遺跡の早期縄文式土器」『Aesculus』No11
- 川原由典 1975「北関東」『新版仏教考古学講座 第7巻』
- 國井弘紀 1997「下野国出土骨蔵器小考－芳賀郡を中心に」『栃木県立博物館研究紀要』第14号
- 小森紀男 1980「栃木県における五領式土器の研究－谷近台遺跡の編年的位置を中心として」『宇大史学』第2号
- 小森紀男 1989a「芳賀町千ヶ久保遺跡出土の祭祀遺物」『峰考古』第7号
- 小森紀男 1989b「栃木県芳賀町芳志戸十三塚古墳の検討」『栃木県考古学会誌』第11集
- 小森紀男 1993「第1章 経緯と環境 第3節 遺跡の環境」『栃木県市貝町 上根二子塚古墳群－測量・発掘調査報告書』市貝町
- 佐藤行哉 1927「芳賀郡の経塚 附下野国経筒年表」『下野史談』第4号第2号
- 山武考古学研究所 1992『免の内台遺跡－芳賀西部台地土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』栃木県芳賀町文化財報告第15集 芳賀町教育委員会
- 芹澤清八 1990「芳賀郡芳賀町金井台遺跡採集の土偶」『Aesculus』No8
- 芹澤清八 1992「芳賀町免の内台遺跡出土の石器」『Aesculus』No16
- 竹澤 謙・初山孝行・田代 隆・岩崎浩恵 1992『久保遺跡－県営圃場整備事業「赤羽地区」に伴う埋蔵文化財発掘調査』栃木県埋蔵文化財調査報告第125集
- 徳田浩淳 1978「般若寺遺跡と歴世の事績－俗説、種姫の供養塔は將軍家治の宝塔である」『栃木県史研究』第15号

- 栃木県教育委員会 1985『栃木県文化財地図』
- 栃木県史編さん委員会 1976『栃木県史 資料編・考古一』
- 中村紀男 1964「芳賀郡芳賀町芳志土出土の滑石製模造品」『栃木考古学研究』No 1
- 中村紀男 1997『西ノ入1号墳－栃木県芳賀町給部・芳賀牧場敷地内古墳確認調査』株式会社東京サラブレッドビューロー
- 芳賀町教育委員・芳賀町文化財調査委員会 1967「栃木県指定文化財特集号」『芳賀町の文化財』第3集
- 芳賀町教育委員会 1987『芳賀町の文化財』芳賀町の文化財第12集
- 芳賀郡市文化財委員長連絡協議会 1981「埋蔵文化財編」『芳賀の文化財』第3集
- 橋本澄朗 1984「下野の蔵骨器について－当館展示資料を中心として」『栃木県立博物館研究紀要』第1号
- 橋本澄朗他 1998「城館・陣屋跡編」『芳賀の文化財』第19集 芳賀郡市文化財保護審議会連絡協議会
- 橋本澄朗他 1995「栃木県」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題《第1分冊》』第5回東日本埋蔵文化財研究会
- 服部玉枝 1968「芳賀町八ツ木字坪之内出土の土師器」『栃木県考古学会誌』第2・3合併集
- 塙 静夫 1954「芳賀町坪之内遺跡調査予報」『下野史学』第6号
- 塙 静夫 1955a『栃木県芳賀郡芳賀町坪之内遺跡調査報告』宇都宮大学史学研究室
- 塙 静夫 1955b「晩期縄文土器文化期に関する諸問題」『下野史学』第7号
- 塙 静夫 1956a「古墳文化期の環溝遺構と庶民埋葬の一方式」『下野史学』第8号
- 塙 静夫 1956b「作内遺跡調査報告」『史友』第5号
- 塙 静夫 1958「北関東晩期縄文土器文化の様相」『下野史の新研究』
- 塙 静夫 1960「芳賀郡芳賀町坪之内遺跡の調査－縄文式文化の終末相」『北関東に於ける縄文土器の編年学的研究』
- 塙 静夫 1963『芳賀町古代文化』芳賀町教育委員会
- 塙 静夫 1964『栃木県の縄文遺跡（其の一）』作新学院考古学資料室調査報告1
- 塙 静夫 1966「考古学上から」『芳賀町の文化財』第1集 芳賀町教育委員会・芳賀町文化財調査委員会
- 塙 静夫 1982「真岡市・芳賀郡概説」『栃木県の中世城館跡』栃木県教育委員会
- 塙 静夫 1983『芳賀町の歴史』芳賀町教育委員会
- 塙 静夫 1989『とちぎの地名－語源から由来を探る』落合書店
- 塙 静夫 1996『とちぎの地名を探る』随想舎
- 塙 静夫・大金宣亮 1975『谷近台遺跡発掘調査概要－古墳時代（前期）集落址の発掘調査』芳賀町教育委員会

埧 静夫・田代 寛 1970『金井台遺跡－栃木県芳賀町金井台遺跡発掘調査報告』芳賀町の文化財第4集

埧 静夫・屋代方子他 1967『千が窪古墳』芳賀町の文化財第2集 芳賀町教育委員会

埧 静夫他 1968「芳賀郡芳賀町稲毛田出土の五輪塔」『栃木県考古学会誌』第2・3合併集

峰岸純夫他 1979「栃木県」『日本城郭体系4 茨城・栃木・群馬』新人物往来社

宮崎光明 1989a『土塔塚墳墓群』芳賀町の文化財第13集 芳賀町教育委員会

宮崎光明 1989b『芳賀工業団地内運動公園予定地の埋蔵文化財調査概報』芳賀町の文化財第14集 芳賀町教育委員会

宮崎光明・後藤信祐 1987『免の内台遺跡調査概報Ⅱ』芳賀町の文化財第11集 芳賀町教育委員会

屋代方子 1980『芳賀町二子塚西古墳』芳賀町の文化財第9集